

丹波市人権・同和教育協議会

第51号

人権ネットワーク たんば

発行 丹波市人権・同和教育協議会

事務局 〒669-3309

丹波市柏原町柏原 4 4 3

TEL・FAX 0795-72-2770

e-mail jinken@tambashi-doukyou.jp

中学生の主張 人権作文最優秀作品

丹波市人権・同和教育協議会（市同教）では、市内の中学生から人権作文を募集し、最優秀作品を市同教広報紙「人権ネットワークたんば」に掲載しています。

本年度も、市内全中学校から 21 点の作品応募がありました。障害者の人権、性的少数者の人権、コロナ差別、高齢者の人権、同和問題

など多様な人権についての内容で、中学生の人権意識の深まりと人権教育の広がりを感じました。選考の結果、和田中学校 3 年大垣彩音さんの作品が最優秀賞に選ばれました。大垣さんの思いが一人でも多くの市民の皆様の心に届くことを願って作品を紹介させていただきます。

感情と向き合う

和田中学校 3 年 大垣 彩音 さん

児童虐待。最近よくニュースなどで耳にする言葉だと思います。私はいつもそのようなニュースを見るたびに「なぜ自分の子どもをそこまで痛めつけることができるのか」とすごく疑問に思っていました。

私はたちばな学級（人権学習に取り組む生徒の自主的グループ）に入り、人権や平和についての勉強をしています。そのたちばな学級の取組として、児童虐待についての講演を聞く機会がありました。講演のテーマは、「幸せってなんだっけ？～人にも自分にも当たらない社会をめざして～」というものでした。講演をしてくださった島田妙子先生は子どもの頃、実際に虐待を受けていたそうです。虐待を受けていたころは、絶対に人を信頼しないようにしていたし、実際に死のうとして遺書まで書いたこともあったと話をされました。その話を聞いて改めて虐待がどれだけ子どもを追い詰め苦しめているのかを実感しました。

先生の話の中で、私の印象に残っている話があります。それは、「大丈夫です」が合言葉だったという話です。「大丈夫です」、「大丈夫です」そう言い続け、先生は常に自分の感情を押し殺していました。

私さえ我慢すればすべてうまくいくのだからと、人生を諦めていたという話をされた時はとても大きな衝撃を受けました。大人になって子どもを持ってからも、育児や仕事などずっと一人で我慢してきたことによるストレスで、子どもに当たってしまうこともあったそうです。その話を聞いた時、私は今まで児童虐待と聞くと、虐待を受けている子どもの立場ばかり考えていて、親の立場になって考えるということをしていなかったと気がつきました。

そこで私は、子どもの虐待が起こる原因について調べてみました。虐待の原因には、育児に対する不安や親自身が虐待をされた経験があるなどの親の要因、かんしゃくが激しかったり障害があったりなどの子どもの要因、経済的不安や地域からの孤立などの家族を取り巻く環境の要因の三つがあり、それらの要因が重なった時、親の精神状態が不安定になり、虐待が引き起こされてしまうそうです。

私は、今まで、虐待は親個人に問題があると思っていたけれど、様々な要因が重なり合ってそれが引き金になってしまうということが分かりました。

島田先生は、イライラしたりネガティブになったりして、精神状態が不安定になった時、その感情を人のせいにはしてはいけないとおっしゃっていました。よく「〇〇さんが私を怒らせた」という言葉を聞きますが、そのように感情を人のせいにすることでどんどんヒートアップしていき、相手を深く傷つける言葉を思ってもいないのに言ってしまうたり、暴力をふるってしまうりするそうです。

人間誰しも、イライラしたりネガティブな感情になったりすることはあると思います。でもそんな時、その感情をどれだけコントロールできるかはとても重要です。私自身、今までに感情が上手くコントロールできずに、怒りにまかせて人に当たってしまったことがあります。これからは自分の感情と向き合い、感情に任せて行動してしまわないようにしたいです。そして大人になって子どもをもった時は、たくさんの愛情を注いで大切に育てていきたいと思っています。

丹波市人物伝

第3回 小島省斎 柏原藩の財政立て直しに尽力した「丹波の聖人」

今回の丹波市人物伝は、柏原藩の財政立て直しに尽力した「丹波の聖人」と言われた小島省斎を紹介します。省斎はふるさとを担う人材育成にも力を注ぎました。

省斎は1804年8月11日、旧青垣町佐治で生まれました。父（忠四郎）は、キザミたばこを売って収入を得ていましたが、広島地方へ行商に行ったまま帰らず、そのため省斎は貧苦の中で育っています。幼少のころから手習いや本を読むことが好きで、母を助ける孝行息子でもありました。

1826年23歳で結婚すると、老母の生活と家事を妻に任せて京都に学問の師を求めて旅立っています。苦学3年、学問の成果は大いに上がりました。しかし母が病気となり、勉学を続けたい気持ちはありましたが、やむなく帰郷し塾を開きました。塾の評判は高く、柏原藩主の耳にも入りました。柏原藩にとって、なくてはならない人として取り立てられたのです。

藩主たちに儒学を教える一方、教育の場としての学校（藩校）が必要であることを説き、「崇広館」という学

校をおこしました。崇広館は柏原藩邸跡にあり、崇広小学校の校名の由来となっています。

当時、柏原藩は財政が困窮しており省斎は藩を立て直すために、たびたび藩主に改革を促す忠告をしました。省斎の意見を受けて藩は立ち直ることができました。

江戸幕府崩壊の折には、攘夷の号令を天下に示すべしと進言しています。丹波の小藩から明治維新に向けて大きな役割を担うことができたのは省斎の識見によるところが大きかったと考えられます。

1837年、大塩平八郎が町奉行の圧政に反抗して起こした天保の乱は、城倉など18,000戸を焼く大事件となりましたが、時の大坂城代は「この騒乱は無知の町民をたぶらかして起こした大塩の反逆行為であるから、貴殿には厳に軽挙を慎まされたい」との書簡を省斎に寄せています。大坂城代からこの書簡を寄せられるほどになっていた省斎の偉大さを物語る話ですが、丹波の地にあって天下の動向をよく見ていた省斎の姿が偲

れます。

省斎の言葉として「細鍼手にさされば疾痛して用ふるにたえず。織塵目に入らば、昏眩して視る可からず。これ心もまた然り。名利の一念心に留在せば天真束縛せられて自在なるを得ず」が有名です。ささいな棘でも手に刺さると、痛くて手が自由に使えない。わずかなゴミでも目に入ると、見えづらくなる。名を上げたい、儲けたい。そんな思いがわずかでもあれば、心の動きは拘束され、自由でなくなる、という意味です。

省斎は廃藩後、佐治に戻り教化事業を続けていましたが、1882年に病に倒れ1884年6月6日、80歳で亡くなりました。1886年には、門弟の田艇吉らが記念碑を建立しています。この記念碑は、現在、柏原歴史資料館のそばに立っています。



■ 参考文献：『人権ゆかりの地を訪ねて(前編)』丹波市人権・同和教育協議会／『丹波人物伝』永上育英会

あなたとまちとフェイス to フェイス

中兵庫信用金庫

理事長 足立 厚 郎

本店・丹波本部 丹波市氷上町成松226-1
Tel. (0795) 82-8850(代)

三 田 本 部 三田市けやき台1-4-3
Tel. (079) 569-7150(代)

ホームページ <http://www.nakashin.co.jp>

JA丹波ひかみは
地産地消に取り組み
地域の「食」と「農」を応援します!

とれたて野菜直売所

※場所：JA丹波ひかみ本店敷地内
—希望とるおいのあるまちづくり—

JA丹波ひかみ

〒669-3461 丹波市氷上町市辺440 TEL (0795) 82-0170 FAX (0795) 82-3658
<https://ja-tanbahikami.or.jp/>

真実一途 株式会社 吉住工務店

代表取締役社長 吉住 正 基

本社：丹波市春日町野村2465
TEL：0795-74-0712

こだま館 / 丹波展示場
西宮営業所 / 西宮展示場
三田展示場

丹波新聞は下記の店舗で
最新号を販売しております。

丹波市

- ファミリーマート柏原下小倉店
- 氷上パーキングエリア
- ひかみ四季菜館（大岡）
- 丹波医療センター内 売店
- セブンイレブン丹波市辺南店

丹波篠山市

- ファミリーマート篠山丹南店
- 岡本病院内 売店
- セブンイレブン篠山黒岡店

丹波新聞 TEL.0795-72-0530 FAX.0795-72-1956

丹波新聞 検索